

2017年06月07日
博報堂 新しい大人文化研究所

新大人研レポート No.28 新しい大人へ：オンナも変わるオトコも変わる その①

40・50・60代女性は“自分爆発レディ”

子育てを終了した40-60代の女性は

「これからは自分の時間を
楽しみたい」(40.8%) > 「これからは夫婦二人の時間を
楽しみたい」(27.5%)

- 「これからはひとりの時間を楽しみたい」(29.3%)
- 「これからは友人・仲間との時間を楽しみたい」(27.8%) とつづき、 “自分全開” へ

博報堂新しい大人文化研究所では、40~60代を“新しい大人世代”と呼び、調査研究を行っています。

いま、40~60代はさらに大きく変化し、今後高齢社会を大きく変える兆しを見せてています。2015年調査では『シニアから新大人へ』と、自分たちは従来の50・60代とは違うという意識の高まりをレポートしました。今年3月の調査結果に基づく今回のシリーズでは、「新しい大人へ：オンナも変わるオトコも変わる」として、さらに進化する生活者の意識変化を明らかにして行きます。

調査結果から「40・50・60代女性が子育て終了を迎えて思うこと」は、まずはホッとし(41.4%)、ほぼ同レベルで「これからは自分の時間を楽しみたい」(40.8%)と感じています。さらに、「これからはひとりの時間を楽しみたい」(29.3%)、「友人・仲間との時間を楽しみたい」(27.8%)と、3項目で「夫婦二人の時間を楽しみたい(27.5%)」を上回り、さらに「大人になった娘との時間を楽しみたい」(25.4%)が続きます。まさに「自分全開」です。男性もまずはホッとする(43.4%)ところまでは同じですが、それに続くのは「夫婦二人の時間を楽しみたい」(34.0%)であり、女性とはきわめて対照的です。

子育てと家事に長年従事してきた彼女たちにとって、子育てを終えることは“実質的な定年”を意味します。「子育てが終わってようやく自分の時間を持つようになった」の数値が40代女性で特に高くなっている(39.8%)のは、子供が中高生になって手がかからなくなったことがいかに“解放感”を生むかを示しています。また、「仲間や大人になった娘との時間」を大切にしたい気持ちは、夫定年後の「コミュニケーション」不安の裏返しとして求めている、とみることもできます。(P.4 参考データ参照)

さらに、彼女たちの「ひとりの時間を楽しみたい」(29.3%)という思いは、男性の16.2%を大きく引き離しています。50・60代女性はこれまで「仲間」や「母娘」で行動することが多かったのですが、団塊世代以降は「ひとりの時間も楽しみ」になり、「おひとり様」も楽しめる女性へと、より進化しているのです。

2003年頃始まったとされ、今だに続く「韓流ブーム」は彼女たちのパワーが発端となっており、他にも、石川遼くんブーム、ハンカチ王子(斎藤佑樹さん)、浅田真央さん・羽生結弦くん人気、さらにはSMA P引退に対する署名運動といった社会現象をリードしてきました。

また消費の面でも、「絶対削れない子供の教育費と食費の終了」で家計がグッと楽になります。これが「母娘消費」「仲間消費」を生み出しています。北陸新幹線開通によって京都に加えて金沢が女性たちで溢れる定番の旅先になり、日本の旅行消費を牽引してきました。ここに「おひとり様パワー」も加わり、近年の「大人のひとり旅ブーム」を支えています。

こういう社会現象や消費を生み出す女性達を「自分爆発レディ」と名付けました。

本件に関するお問い合わせ：
博報堂 広報室
博報堂 新しい大人文化研究所

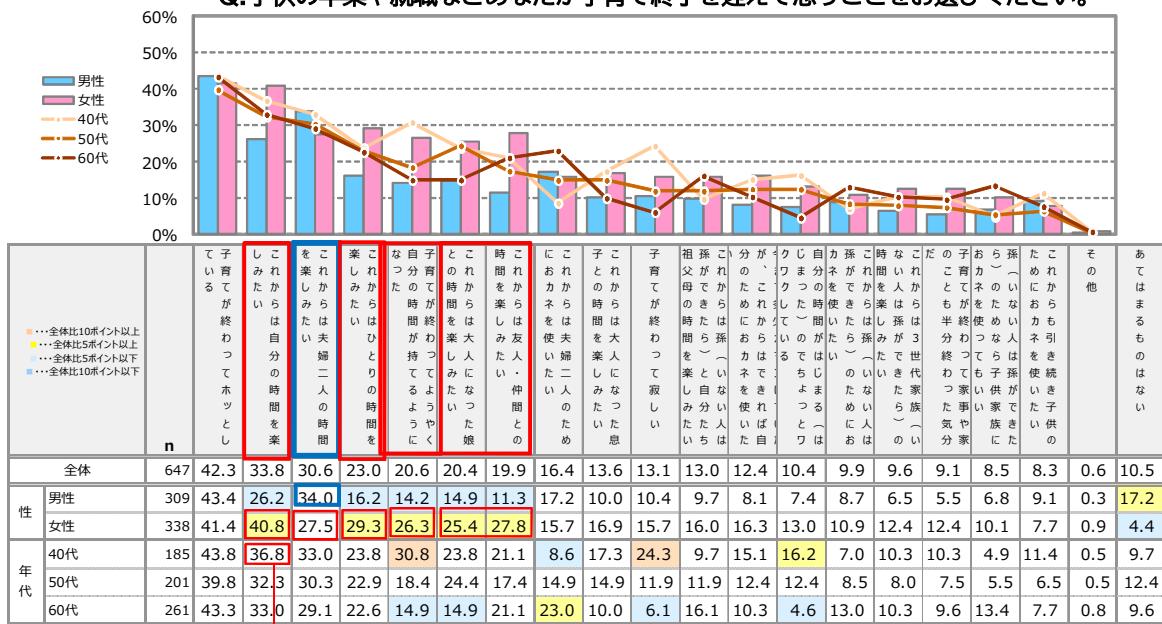
藤井 大野 TEL:03-6441-6161
阪本 TEL:03-6441-4366
setsuo.sakamoto@hakuhodo.co.jp

<調査結果>

■子育て終了を迎え、男女ともにホッとして、男性は「夫婦二人の時間を楽しみたい」のに対し、女性は「自分の時間・ひとりの時間を楽しみたい」「仲間・大人になった娘との時間を楽しみたい」「子育てが終わってようやく自分の時間が持てるようになった」が高い。

男女ともに1位は「子育てが終わってホッとしている」で、2位以下は男女で分かれます。女性は2位「これからは自分の時間を楽しみたい」(40.8%)、3位「自分ひとりの時間を楽しみたい」(29.3%)です。男性の2位が「夫婦二人の時間を楽しみたい」(34.0%)と思っているのと対照的です。さらに女性は、「ようやく自分の時間が持てるようになった」(26.3%)、「仲間や大人になった娘との時間を楽しみたい」(仲間27.8%/娘25.4%)、と続きます。また、彼女たちにとっては「自分の時間」の持てるることにとどまらず、「ひとりの時間を楽しみたい」(29.3%)も男性の16.2%を大きく引き離しています。50・60代女性はこれまで「仲間」で行動することが多かったのですが、それに加えて「ひとりの時間も楽しみ」になり「おひとり様」も楽しめる女性達となっています。

Q.子供の卒業や就職などあなたが子育て終了を迎えて思うことをお選びください。

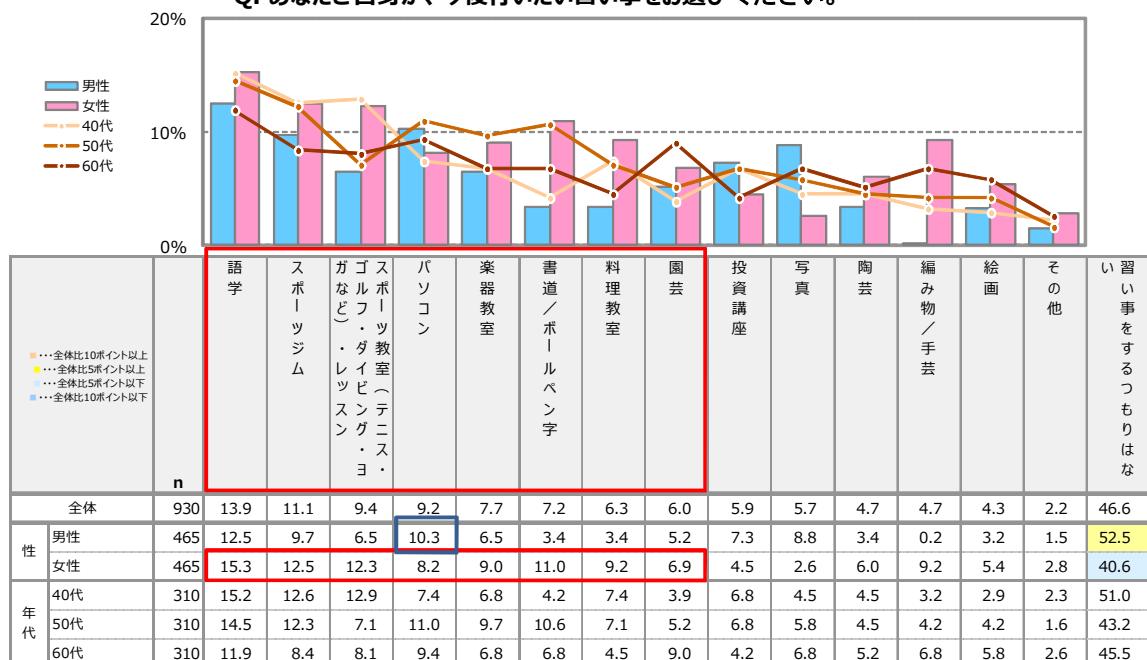


→40代女性では39.8%

■今後行いたい習い事は、いずれも女性が高い。1位：語学、2位：スポーツジム、3位：スポーツ教室、4位：パソコン、5位：楽器教室、6位：書道/ボールペン、7位：料理教室、8位：園芸であり、このうち男性が高いのはパソコンのみ。

1位語学（男性12.5%/女性15.3%）、2位スポーツジム（男性9.7%/女性12.5%）、3位スポーツ教室（男性6.5%/女性12.3%）といずれも女性の割合が高い。一方、4位パソコン（男性10.3%女性8.2%）とパソコンのみ男性が高い。女性は子育て終了で出来た自分の時間を「自分磨き」のために使いたいと思っています。

Q.あなたご自身が、今後行いたい習い事をお選びください。



■国内旅行も海外旅行も一緒に旅行したい相手の1位は「配偶者・パートナー」で男性がやや高いが、2位は「娘」、それに「同世代のプライベートな友人」（国内3位/海外4位）が続き、いずれも女性がかなり高い。

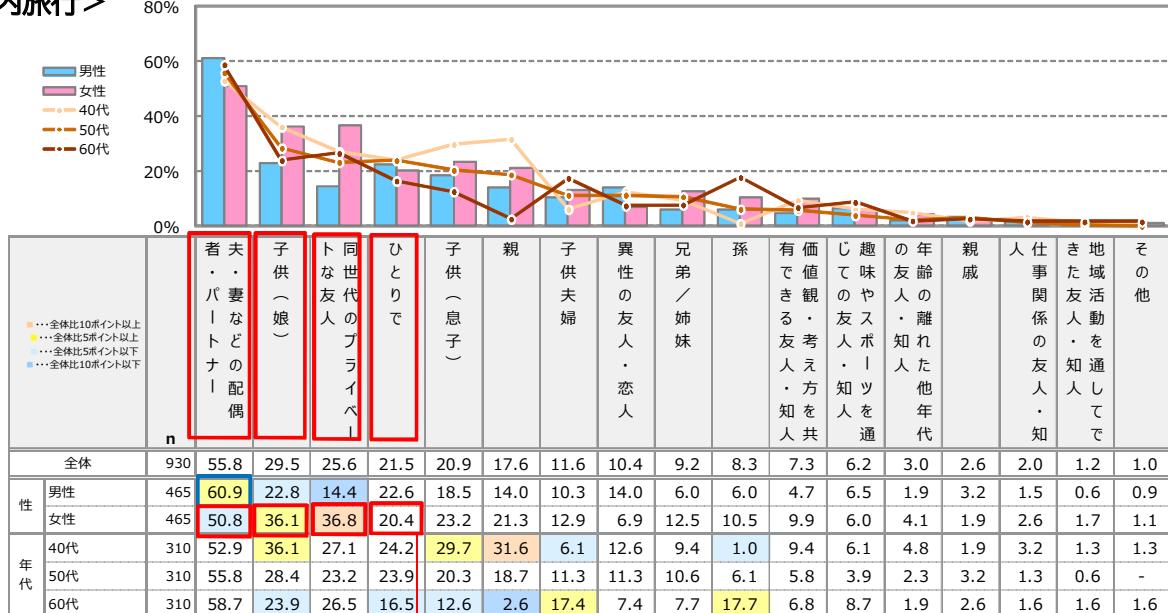
1位は国内旅行も海外旅行も「夫・妻などの配偶者・パートナー」（国内55.8%/海外49.7%）であり、いずれも男性のほうが高いといえます。しかしながら、2位以下は、いずれも女性が男性に比べてかなり高く、＜国内旅行＞は2位「同世代のプライベートな友人」（36.8%）、3位「娘」（36.1%）、＜海外旅行＞は2位「娘」（28.2%）、4位「同世代のプライベートな友人」（26.0%）となっています。

女性は、自分の時間が出来て、旅行に行くときにも「同世代の友人」と「娘」となっています。

さらに、2012年調査（新大人研レポート XIV「旅行」）との比較でいえば、国内旅行で「ひとりで」が、女性40代で8.7%→20.4%と5年間で2倍以上に上昇しています。男性も12.1%から22.6%へと上昇していますが女性の伸び率のほうが上回っています。「大人のひとり旅」がブームになる所以であり、女性に特にその傾向が強いといえます。

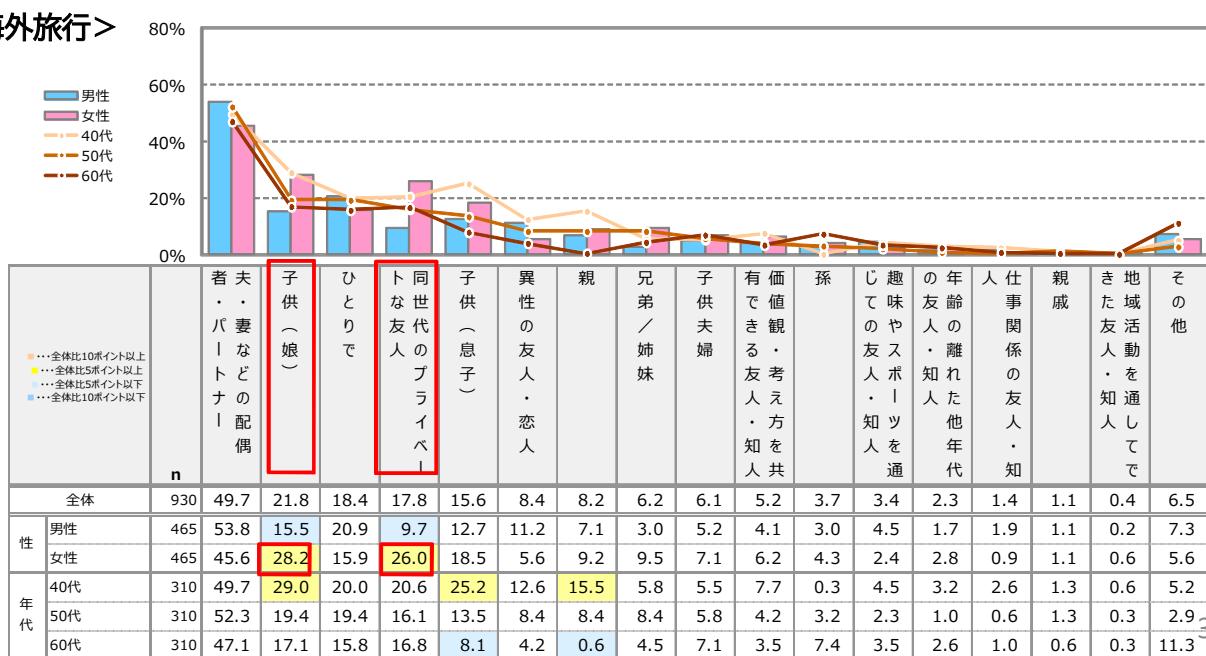
Q.あなたが、今後、一緒に旅行をしたい相手はどなたですか。国内旅行・海外旅行についてそれぞれお選びください。

〈国内旅行〉



→2012年度調査の「女性全体」8.7%から大幅アップ

〈海外旅行〉



<参考データ> 「定年後の不安」

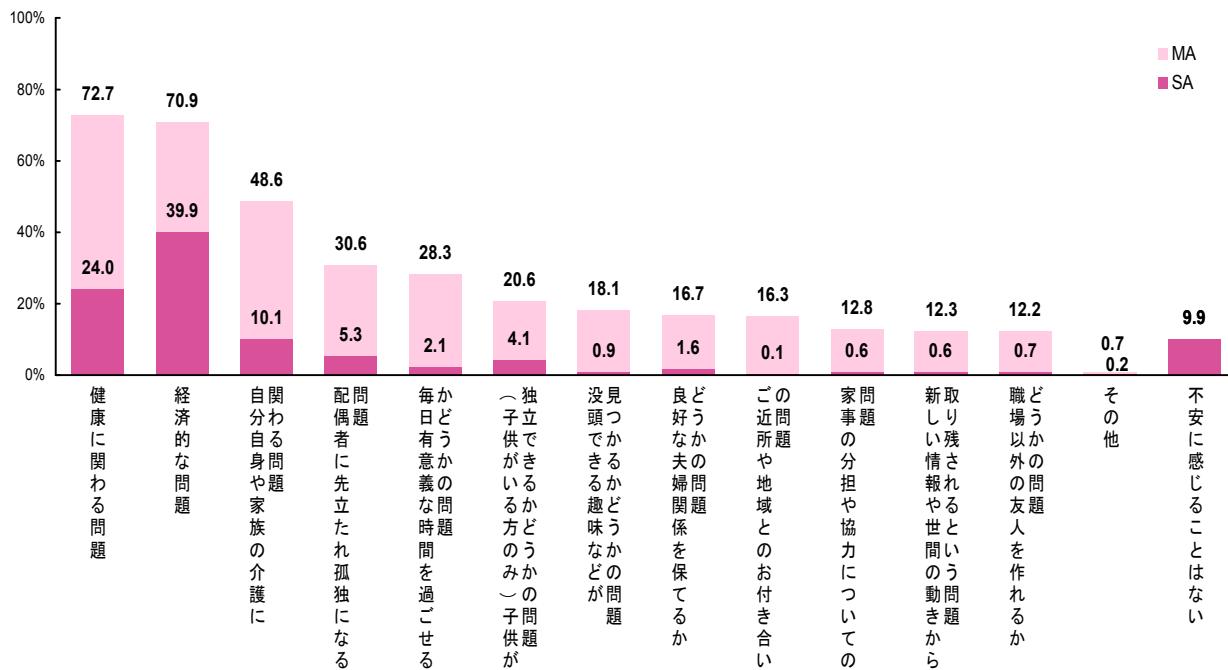
■ 「定年後の不安」に関しては、10数年にわたる調査でも一貫して1位「健康」、2位「経済」は変わらない。したがって定年後の二大不安でかつ二大資本は「健康」と「経済」といえる。しかしながら、その後にくる項目は、「コミュニケーション」に関することが多く上がっている。またそれ以外の項目も「コミュニケーション」が良好であれば解決できることが多い。

すなわち、今回の調査結果では、「子育て終了後」にとくに女性が、友人・知人・仲間や大人になった娘とのコミュニケーションを求める度合いが高いのは、この不安の裏返しとみることもできる。

男性の場合はその不安の解消先として、妻に期待するウェイトが極めて高いということが言え、それが男女の違いとなっている。

定年後の不安の1位は「健康」で72.7%、2位は「経済」で70.9%ですが、その後に続くのは、4位「配偶者に先ただれ孤独になる問題」、8位「良好な夫婦関係を保てるかどうかの問題」、9位「ご近所や地域とのお付き合いの問題」など「コミュニケーション」に関することが見られる。またその他の3位「自分自身や家族の介護にかかる問題」、5位「毎日有意義な時間を過ごせるかどうかの問題」7位「没頭できる趣味などが見つかるかどうかの問題」なども、家族や友人・知人・趣味仲間などのコミュニケーションが良好であれば解決できる問題が多いといえます。

Q. 定年後（今後）を考えた時にどのような事に不安を感じられますか。（いくつでも）（既に定年・引退された方は、今後どのような事に不安を感じられますか。）（いくつでも）b) そのうち、最も不安なことを一つお選びください。（ひとつ）
(n=900)



調査対象 40~60代・男女

調査地域 首都圏（1都3県）

中小都市（首都圏および政令指定都市、岩手県・宮城県・福島県を除く）

※首都圏以外の政令指定都市、札幌市、仙台市、新潟市、静岡市、浜松市、

名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市

※熊本市（2012/4）、岡山市（2009/4）も政令指定都市だが、今回は非除外

対象者数 900サンプル

調査実施日 2013年3月23日（土）～2013年3月24日（日）

*韓流男性タレント人気のピーク時に、熱心にイベント参加している女性には、意外に問題を抱えた女性が多いという話がありました。子育てについては、いくら不安や不満があっても母親が爆発するわけにはいきませんが、子育て終了後の夫との関係や親の介護については、許せる範囲で爆発したい、という気持ちも働くとみられます。

<調査概要>

調査主体：博報堂 新しい大人文化研究所

調査対象：40～60代男女

対象エリア：1都3県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）

中小都市（首都圏、熊本市・岡山市以外の政令指定都市および岩手県・宮城県・福島県を除く）

対象者数：930サンプル

調査手法：インターネット調査

調査日時：2017年3月17日（金）～3月19日（日）

<参考資料>

博報堂 新しい大人文化研究所 過去のレポート一覧

※過去のレポートは、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.h-hope.net/> (新しい大人文化研究所WEBサイト)

<http://www.hakuhodo.co.jp/> (博報堂WEBサイト→「ニュースリリース」→「調査レポート」)

【新大人研レポート シニアから新大人へ、新型50・60代に。シリーズ】

No.17 その① 新大人はこれまでの同世代と違う“新型50・60代” (2015.10.8)

No.18 その② 新大人は“新型50・60代”であり、それをリードするのは「自然体大人女子」 (2015.10.13)

No.19 その③ 新型50・60代は「新しい大人のライフスタイル」創りへ(2015.10.23)

No.20 その④ 新型50・60代は「介護予防」「健康向上欲求」の意識高く(2015.11.12)

No.21 その⑤ クロスジエネレーションを求める新型50・60代(2015.11.18)

No.22 その⑥ 新しい大人世代を象徴するのは「音楽」(2015.12.21)

No.23 その⑦ 新しい大人世代、依然として続く「夫婦すれ違い」(2016.1.15)

No.24 その⑧ 新しい大人世代は「夫婦二人消費」におカネをかける(2016.2.23)

No.25 その⑨ 新しい大人世代の孫育ては「近居・孫友」の新スタイル(2016.3.2)

No.26 その⑩ 新しい大人は「ネットショッピング」と「3世代SNS」(2016.3.30)

No.27 その11新しい大人は「夫婦ふたりのアラカルトグルメ」(2016.4.27)

【新大人研レポート 新しい大人へ：オンナも変わるオトコも変わるシリーズ】

No.28 その① 「40・50・60代女性は“自分爆発レディ”」 (2017.6.7)

「博報堂 エルダーナレッジ開発 新しい大人文化研究所」（新大人研）について

「新大人研」は、博報堂エルダービジネス推進室（2000年設立）を前身とし、2011年2月に設立されました。17年間のナレッジの蓄積を持っています。従来の中高年層の間で一般的であった意識やライフスタイルとは異なる新しい40～60代が誕生しています。新大人研では、年を重ねるごとに前向きな意識を持つ、この新しい中高年生活者を「新しい大人」と名づけ、少子高齢化社会にプラスのインパクトを与える重要な存在として調査・研究しています。さらに、2015年からはクリエイティブなどの実践機能も本格的に加え、よりよい未来のためのソーシャルイノベーションを起こす社会のエンジンを目指しています。

今年度は『新大人研レポート 新しい大人へ：オンナも変わるオトコも変わる』をシリーズで連続発表の予定です。

■新大人研著作は台湾版・韓国版など海外へも

